

網代漁業株式会社

ふじのくに未来をひらく農林漁業奨励賞受賞

令和2年1月10日、静岡県庁で行われた「令和元年度ふじのくに未来をひらく農林漁業奨励賞」表彰式において、熱海市で大型定置網を経営する「網代漁業株式会社」（以下、網代漁業）が、販路拡大や単価向上に関する先進的な取組を行ってきたことを評価され、本賞を受賞しました。

定置漁業は、漁法の性格上、獲る魚を選べないこと、漁獲量が魚の来遊状況に左右されてしまうことなどから経営は必ずしも安定的ではありませんでした。こうした実情に対し、網代漁業が着手したのが「首都圏での飲食店と小売店の開業」でした。築地場外市場に小売店を開業し朝獲れの魚を直販したり、JR品川駅近くに飲食店を開業し、低未利用魚を使った料理提供するなどして漁獲物の単価向上を実現しました。また、「小型魚の蓄養出荷による魚価アップ」にも取り組んでおり、定置網に入るブリの幼魚（わかし）や小型のサバを自社所有の生簀に收容し、同じく定置網に入った小型のイワシ類を餌として与え、成長させて出荷しています。蓄養出荷は魚体を大きくすることだけでなく、年末年始など単価相場が高くなる時期に合わせて出荷する“出荷調整”ができるというメリットもあり、わかしは1kgあたり1,000円前後、サバは魚体の大きさにより800～1,500円と、単価は10倍以上に上昇し、収益向上に繋がりました。

このように、網代漁業は新たな取組みにチャレンジしており、今後の更なる活躍が期待されます。

(鈴木勇己)



写真 取組の紹介をする
網代漁業 中村氏



写真 県知事より表彰される